（決勝課題 1）

夢野久作　作

森の神

森の神様が砂原を旅する人々のために木や竹を生やして、真青に茂りました。

その真中に清い泉を湧かして渇いた人々に飲ましてやりました。

すると大勢の人がやって来て木の下へ家を立て並べて森のまわりに柵をして、

中へ休みに入る人からお金を取りました。

水を飲む人からはその上に又お金を取りました。

森の神様はこんな意地の悪い人々を憎んで、

森を枯らして泉を涸らしてしまいました。

旅人からお金を取った人々は大層困って

「何という意地の悪い神様だろう」と、森の神様を怨みました。

森の神様は言いました。

「私はお前たちのためにこの森をこしらえたのではない。

旅人のためにこしらえたのだ」

【参考】https://aozoraroudoku.jp/voice/rdp/rd267.html

（決勝課題 2）

小川未明　作

金めだか

陽(ひ)の光(ひか)りが、庭先(にわさき)の鉢(はち)のところまでとゞくようになりました。

なみ／＼といれた水(みず)の面(おもて)へ、かあいらしい金(きん)めだかが、

四(よっ)つ頭(あたま)をならべて、せわしそうに鰭(ひれ)をうごかしながら、

光(ひか)りを吸(す)おうとしています。もっと大(おお)きいのも沢山(たくさん)いたが、

冬(ふゆ)を越(こ)す間(あいだ)にこれだけとなりました。

　いま、芽(め)ぐんでいる睡蓮(すいれん)が、やがて鉢(はち)いっぱいに葉(は)をのばして、

黄色(きいろ)な花(はな)を咲(さ)くころ、その間(あいだ)を泳(およ)ぎまわり、

卵(たまご)をつけることだろうと思(おも)うと、何(なん)となく、

この色(いろ)の鮮(あざや)かなめだかの将来(しょうらい)を、輝(かが)やかしく思(おも)うのでした。

【参考】https://aozoraroudoku.jp/voice/rdp/rd824.html

本コンテストの課題について

テキストは「青空文庫」サイトから引用しています。

音源は「一般社団法人　青空朗読」様の許可を得て提供しています。

音源の著作権法上の権利は、　「一般社団法人　青空朗読」に帰属し、

無断で利用・転載・流用することは禁止されています。